

## 令和5年度 地域福祉計画策定に向けた意見交換会 開催概要

### 1. 日時・参加者等

開催日時:2023年7月11日(火)15時~17時

会 場:大田区役所会議室

参加者:計23名

- (1) 社会福祉協議会・ボランティアセンター職員
- (2) 社会福祉協議会・地域福祉コーディネーター
- (3) 地域包括支援センター・見守り支えあいコーディネーター
- (4) 区民活動団体連絡会
- (5) 地域とつくる支援の輪プロジェクト
- (6) mics おおた
- (7) こらぼ大森
- (8) 特別出張所

### 2. 意見交換会の目的・開催の趣旨

- 地域福祉計画においてなぜ地域共生社会が必要なのかを分かりやすく表現して伝えられるようにするため、地域づくりの支援に関わっていらっしゃる関係機関・団体の方々が考える、「大田区が目指す『地域共生社会』」の姿について意見交換を行う。
- 令和4年度に実施した実態調査からその必要性が明らかになってきた「気軽に相談が受けられる仕組みづくり」、「地域活動への参加の仕組みづくり」、「他者とのつながりや自らの居場所を持てる地域づくり」の3点の実現に向けた意見交換を行う。

### 3. 意見交換会の内容・流れ

- あいさつ(会の趣旨説明)
- 実態調査の結果紹介
- 会の進行・進め方の紹介
- 自己紹介・アイスブレイク
- グループ討議(5つのグループに分かれて、各テーマについて討議・意見交換を行った)
  - (1)大田区が目指す「地域共生社会」について
  - (2)地域福祉の推進に係る取り組みについて(テーマ別意見交換)
    - ①区民にとって身近な相談が受けられる仕組みについて
    - ②多様な主体が参加できる仕組みについて
    - ③住民同士のつながりや地域の居場所について
- 全体のまとめ

## 4. グループ討議の内容

### (1)大田区が目指す「地域共生社会」について

- 5つのグループそれぞれで討議・意見交換を行った内容について発表いただきました。
- それぞれ、現状に対する課題認識もふまえて、次のような発表がありました。(要約・抜粋した内容を示しています)

#### ○第1グループの意見概要

- ・「情報」が一番大切ではないか。求めに行かなければその人に届かないような情報をどう届けるか。
- ・情報を得るにはつながりが必要で、つながりが生まれれば見守りもできる。つながりを作るためには仕組みが必要である。
- ・仕組みづくりのために、お互い支えられるような、マインドを高めていくことが重要。
- ・活動には寄付も必要。学校教育も含め、寄付についての啓発が緩い。



(目指す姿・キーワード等)

- きちんと情報が届く
- つながりが作られる(仕組みがある)
- 支えあうマインドがある
- 寄付などで必要な資金が集まる

#### ○第2グループの意見概要

- ・多様な主体間の議論において行政も入っていることが重要である。
- ・主体が中高年の人たちが多く、若い世代の人たちが入っていない。
- ・いろいろな団体等の活動だけでなく、それらが交わる「リビング」のようなスペースがあるとよい。
- ・自治会など地域活動に参加している人は責任感が強く、真面目過ぎる面もある。「隙間がない」形でなく、「遊び」の部分があり、潤滑油のような役割をするような人が入っていけるような活動が必要ではないか。
- ・協働や対話において、仲間外れにせずに活動していくことが重要ではないか。



(目指す姿・キーワード等)

- 行政と地域団体等との連携がある
- 若い世代が参加できる、受け入れられる
- 一緒に交わるような場がある
- 潤滑油のような役割をするような人材がいる
- 仲間外れにせずに活動する

## ○第 3 グループの意見概要

- ・身近なところで相談できる環境があると、安心して暮らせる共生社会に近づく。
- ・地域共生社会実現に向けては、個人が孤立せずに自分の能力を発揮できることが必要である。
- ・その前提として、自分の存在を認めること、お互いの存在を認めあえることが大事。
- ・地域でボランティア活動に参加する企業のネットワークができるが良い。
- ・地域共生社会をつくるのであれば、多様な働き方を企業でも考えてもらうことが大切。会社員と地域の活動、2つの生き方ができ、地域活動を充実させることで、個人の自信につながる。
- ・企業が能力に応じて働ける環境を整えることで、地域に参加できるようになり、共生社会に繋がっていく。マイノリティ的な方、一人暮らし高齢者なども含めて、安心して自分を出せる社会をつくる。
- ・孤立させない方法として、挨拶が大切。挨拶から、ひとりじゃない、あの人たちは自分を見てくれている、ということを感じ、安心できる環境に繋がる。孤立孤独を防ぐ、ということに、挨拶は役に立つ。



(目指す姿・キーワード等)

- 個人が孤立せずに自分の能力を発揮できる
- 自分の存在、お互いの存在を認めあえること
- 企業は多様な働き方ができる環境を整えることが大切
- 安心して自分を出せる社会をつくる
- 孤立孤独を防ぐことに、挨拶は役に立つ

## ○第 4 グループの意見概要

- ・話し合いの中での共通したキーワードとして「居場所」と「多様性」ということがあった。
- ・輪づくりはすでにあちこちできているが、その輪と輪をつなげるということをやってみることが重要ではないか。
- ・住民がまちづくりなどに意見を出し合える場、主体性を持って参加できる場が、できれば歩いて行ける距離にあるとよい。
- ・自分たちが主体でやる、行政はこれを支援してくださいという姿勢。行政はサポートしてくれると助かる。
- ・相談する先は家族、親戚、友人・知人だが、その間にコーディネーターがいると良い。



(目指す姿・キーワード等)

- 居場所がある
- 多様性が認められる
- 輪と輪がつながる(つなげる)
- 意見を出し合える
- 主体性をもって参加できる場が身近にある

## ○第 5 グループの意見概要

- ・まず話し合える場があるということ、その際誰もが同じ舞台・仕組みに乗れることが重要だと思う。そのために行政によるセーフティーネット、お互いを信頼する気持ち・寛容さが重要である。
- ・安全なまちを考えていく上で、なぜつながりが大切かを考えてつながることも重要である。
- ・考えなければならないテーマだけでなく、楽しいということも大切である。
- ・ゆるくて出入り自由な居場所が地域にあるとよい。そこでもしかしたら相談を受けるかもしれないし、安心感を得られる、つながりを深められるかもしれない。
- ・情報ツールなど、「今どきのツール」も必要ではないか。また、ツールがあるだけでなく、リアルにどうつなげるかということも考えていく必要がある。



(目指す姿・キーワード等)

- 楽しいことに関われる
- 必要性があるテーマでつながれる
- 出入り自由な場所がある
- 情報ツールなどによりつながれる

## (2) 地域福祉の推進に係る取り組みについて

### ① 区民にとって身近な相談が受けられる仕組みについて

- ・相談が受けられる仕組みについて、まず相手ファースト、相手の気持ちに寄り添うことが大切。これは民間だけでなく公的機関や社協も含めてしっかりと受けとめていくことがまず大事ではないか。
- ・民間と公的機関や社協と連携しながら、情報共有だけでなくつなぎ場所なども共有し合って対応できるようにする。
- ・相談できるところとして、好きな時間帯に相談できる場所、歩いて行ける場所、オンラインも大切なのではないか。
- ・支え合う仕組みづくりの一つとして、公と民間の方たちが一緒になって話し合う場が必要。
- ・相談に足を運ぶのはやっぱりハードルが高い、嫌だなんて思う人が多いので、いろんな人たちがほっとできる居場所がたくさんいろいろな形で地域の中にあるとよい。そのなかでポロツと出てくる、悩みや困りごと、それをどうやって受けとめていけるか。

(キーワード等)

- 相手ファースト、相手の気持ちに寄り添う
- 民間と公的機関や社協との連携・共有
- 好きな時間帯に相談できる
- 歩いて行ける距離で相談が受けられる
- 仕組みとして、公と民間が話し合う場がある
- ほっとできる居場所が地域にある(そこで悩みごとなどを受け止められる)

## ②多様な主体が参加できる仕組みについて

- ・参加するきっかけとしては、色んな地域のアトラクションやるとか、あるいは地域住民の課題、例えば防災の課題や食の課題をきっかけにするということが考えられる。
- ・情報を必要な方にどう届けるのかは一つの課題で、SNS の発信などもよいが、活動に参加した方が広げてくれるということもあるので、よい活動をしっかり提供することが大事である。
- ・アトラクションを行うときには様々な方から協力を得るが、負担ない形で手伝い等ができる仕組みを考えていかなければならない。参加する方、主催する方が全員ハッピーなるような、やってよかったなって思える仕組みが必要。
- ・緩さだったり、楽しさだったりを考えて仕組みを考えていかないと参加してくる人たちはいないのではないか。自分たちが好きで楽しくてやりたくてやったことが評価されるような形に仕組みとしてなってくると、みんな参加しやすい。
- ・小さい規模で集まって始めて、やり続けていくことで最終的に大きな活動につながっていくのではないか。

(キーワード等)

- 地域で様々なアトラクションを行う
- 必要な方に情報を届ける
- 良いものをしっかり提供する
- 活動主体側の負担を減らす仕組みを工夫する

(キーワード等)

- 自由に関われる(緩さ・楽しさ)
- 小さい規模でまずは活動を始める・続ける

## ③住民同士のつながりや地域の居場所について

- ・人と人とのつながりをつくるには、地域に常に開いている場所があることが重要ではないか。いつでもそこに行けば誰かがいて、なにか話ができ、もしかしたら楽しいところかもしれないし、心が助かるところかもしれない。
- ・ハード面も大事であるがソフト面も大事で、結局人をつなぐのは人であることから、ハブになる人・キーマンとなる人がいて、つながりには相性もあるため、地域のことを知って、人のことを知って、地道につないでいくことが重要ではないか。
- ・コロナ禍で地域のイベントなどが止まっていたところをしっかりと再開して活動していくことがまず必要ではないか。(祭り、防災のイベント、自治会、PTA、「親父の会」など)
- ・物理的な意味での環境・居場所が大切で、活動したいって時に使えるようにしていくことが求められる。
- ・また、建物だけでなく、本人が居心地がよい場所が居場所であるから、様々な形で環境を作っていくように支援していけるようにすることが重要ではないか。

(キーワード等)

- 常に開いている、集える場所がある
- 人と人をつなぐ人がいる

(キーワード等)

- コロナ禍で停滞していた活動を再開する
- 物理的な意味での居場所を充実させる
- 居心地の良い環境をつくっていく